



東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京コミュニティーセンター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

ワイズの信条

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAに尽くそう
1. 世界的視野をもって国際親善を図ろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
1. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる
5. 健全な交友関係を作り出す
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

【2022~2023主題】

国際会長 Samuel Chacko (India)

主題: "Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT"

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

スローガン: "BEYOND SELF and BE THE CHANGE" 「自己を超えて、変化を起こそう」

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen (Taiwan)

主題: "Elegantly Change with New Era" 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

スローガン: "Doing It Right Now" 「今すぐ実行を」

東日本区理事 佐藤 重良 (甲府21)

主題: "Let's act now for the future" 「未来に向けて今すぐ行動しよう」

スローガン: "Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself!"

「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを!」

あずさ部長 後藤 明久 (富士五湖)

部長主題: 『ワイズへの参加と交流を楽しもう』

副主題: とにかく参加しよう、リアルとズームで行動し発信しよう

東京武蔵野多摩会長 中村 吉孝

会長主題: 「未来に向けて、まずは会員増強から」

THE Y'S MEN'S CLUB
TOKYO
MUSASHINO TAMA



東京武蔵野多摩
CHARTERED 1963

2023年

2月の聖句

「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。
私たちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」

マタイによる福音書 第2章 2節

2月例会の予定

強調月間: (1月) EF、JEF

(2月) TOF、FF、HTW

日時: 2月15日(水) 19:00~20:40

会場: 西東京センターおよびZoom

〈プログラム〉

司会: 板村 (会場準備: 山口)

* 開会挨拶、点鐘: 中村会長

* 聖句朗読・説明: 江夏

* ゲスト、ビジター、メンバー紹介

* 食事

* 卓話 歯科医師 三鷹市開業 堀 清貴氏

「歯科医師として地元で開業した歯科医院の地域における関わり」

* 連絡、報告、ハッピー・バースデー、ここにこ

* 閉会挨拶、点鐘: 中村会長

12、1月例会報告

出席者	6名/3名
在籍者	9名
メーキャップ	0名/3名
出席率	67%/67%
ゲスト (リーダー)	3名/0名
ビジター	0名/0名
メネット・コメント	0名/0名

* 2月のハッピー・バースデー

大輪さん

ファンド関係

ここにこ	12,1月度	累計
ここにこ	4,000	22,800
2次会ここにこ	0	2,203
メルカリ	2,727	7,902

IBC

Tsim Sha Tsui Y's Men's Club (香港)

Seoul Han Yang Club (韓国)

DBC

神戸学園都市ワイズメンズクラブ



ワイズメンズクラブ紹介ページ



東京武蔵野多摩クラブWEBページ



Facebookページ

【2022-23 クラブ役員】

会長 中村 吉孝
副会長 小林 文彦
書記 山口 直樹
会計 宮内 友弥

ワイズメンズクラブに入会して

渡辺 大輔

ワイズメンズクラブに入会して今年で10年になります。思えば、入会する前に恵比寿にあったビヤステーション恵比寿（現在閉園）で開催された東京武蔵野多摩クラブの30周年記念例会に呼ばれ、その場で入会の宣言をした気がします。その後、クラブ会長を務める前に、部のユース事業主査、区のユース事業主任、クラブから2名の理事を輩出し、お手伝いとして副書記になり、クラブ会長も2度ほど仰せつかりました。クラブのメンバーも10年前とは半分以上が入れ替わっています。そんな中、ワイズを今後も発展させるためにはと、近年考えていますがこれといった解決策は思いつきません。私は今年で42歳となりますが、ワイズのユースと関わり始めたのは19歳（2000年）の頃からで人生の半分以上がワイズのユースや、ワイズに関わっています。最近は自分の考え方もだいぶ固まってしまい、新たな発想が思いつかないなあと思っています。ここ最近ではコロナ禍となり例会などへの取り組み方が加速度的に変わっている中で、増えないまでも何とか減らないようにと考えておりましたが、会員減は免れない状況となってしまいました。そんな中で、最近ではリアルな集会や、声出しなども緩和され実際にリアルな会の開催がだいぶ行えるようになってきました。しかし、一度リモートに慣れてしまうと、開催場所に行かなくてよく、移動時間がないなど、Zoomがあったからこそ、遠隔地からも参加が可能だった等、リアル開催へ戻るのが若干難しいという側面もありますが、今後はリモートの良い点（遠隔地の人も参加しやすく）、なおかつ現場でも人が集まれるハイブリッド形式の例会をもち、その中で例会の質を上げていくことが現状できることではないでしょうか。ハイブリッド形式で行うにはまず事前に告知にて周知徹底が重要であり、そういう意味では当クラブの例会は今後も（少なくとも今年度は）ハイブリッド形式で行っていきます。来月の例会では次期理事の山田さんの卓話もありますので、このプリテンをご覧の皆様にはぜひ当クラブの例会へご友人を連れてご参加いただければと思っています。

<卓話者紹介>

堀 清貴（ほり きよたけ）

しし座のB型

特技：けん玉

【元札幌YMCA学生リーダー】
略歴



三鷹市生まれ

三鷹市内小中学校 卒業

都立国立高校 卒業

1998 北海道大学歯学部卒業

1998-2000 東京医科歯科大学附属病院勤務

2000-2009 さいたま市内開業医に勤務

2009.3.3 「ほり歯科クリニック」(三鷹市)開院

12月例会報告

小林 文彦

開催 令和4年12月11日(日) 17:00~20:00
 会場 新高円寺「カフェ・ネージュ」
 参加者 宮内 板村 伊佐 中村 渡辺 小林
 ゲスト 野尻 麻生 大輪

12月の例会は忘年会も兼ねて、新高円寺にある「カフェ・ネージュ」で開催。
 コロナも少し落ち着きを見せ、対面での飲み会も注意しながらであればある程度許容されるような状況となり、3年ぶりの宴会となった。
 当日は、山口さん、江夏さん、出沼さんが欠席となりましたが、休会中やOBOGの野尻さん、麻生さん、大輪さんも参加して9名の賑わいとなった。
 冒頭に在京新年会や今後の予定、会計報告など連絡事項を手短かに済ませ、第二部の懇親会へと進み、ZOOMの画面からは感じられない温もりのなか、今後の活動や近況、昔話などに興じ、あっという間に予定時間が過ぎていった。

在京ワイズ合同新年会、参加報告

中村 吉孝

1月7日開催の在京ワイズ合同新年会にクラブから中村、宮内さん、板村さんの3名で参加した。今回の在京ワイズ合同新年会は、当クラブの1月第一例会に充当することとしたが、クラブからの参加者が少なく、少々残念。当日は、JR山手線の渋谷駅工事の影響を受け、山手線が一部運休となり、時間内に会場に到着できるか少しハラハラしながら何とか開始時間ぎりぎりに会場の早稲田教会に到着した。東京YMCA総主事、アジア太平洋エリア会長、東日本区理事を始めとする総勢90名の参加があったとのこと。第一部は、東京YMCA評議会会長で会場の早稲田教会牧師の古賀博先生の平和のメッセージの後、東京YMCAとウクライナYMCAの交流と支援の報告、および来賓の挨拶を伺った。第二部は、ウクライナ在住のカノンデュオシスターズのピアノ連弾による、ウクライナ支援のチャリティコンサートということで、中でもドボルザークの「新世界」の演奏が会場の雰囲気も相まって印象的だった。献金額は総計250,170円で、ウクライナの支援に少しでも役立つことを期待したい。



ウクライナ避難者のクリスマス会に参加して

小林 文彦

12月18日(日)ウクライナから日本に避難している方々のクリスマス会を“Ukraine Cafe HIMAWARI”が新宿・四谷で開催されました。
 YMCA同盟の横山さんからのお誘いをいただき、参加と言うよりは見学させていただきました。同盟の隣のビルで開催されたクリスマス会にはボランティア含め90人余りの方が参加され、厳しい現実のなかカウンセラーのセミナーやヴァイオリン演奏、歌唱、ウクライナ料理でのパーティなど心休まるひと時を過ごされました。
 会の内容は同盟のニュースレターから一部を抜粋させていただき以下で紹介させていただきます。

「まさか日本でクリスマスを迎えるとは思っていなかった」。避難者たちは今年一年の言い知れぬ思いを抱えながらも、手作りのお菓子を持ち寄り、共に歌い、励ましあって、心温かなひとときを過ごしました。
 第一部では心理カウンセラーによる心のケア講座を実施。ストレス対処法などを1時間余りにわたって学んだ大人が講座を受講している間、子どもたちは伝統的なクリスマスクッキー「ミコライチキ」を作ったり、謎解きゲームをしたり。よそゆきの服に身を包み、にぎやかなパーティを楽しみました。指導したのは「一般社団法人ジャパン・ウクライナパートナーズ」の末導ホルツ欧里香さん。飾りつけも本格的で、まるでウクライナにきたかのような会場でした。

ウクライナで12月19日は「聖ミコライの日」といわれ、サンタクロースの由来にもなった聖人「聖ミコライ」が、子どもたちにプレゼントを届けてくれる慣習があります。新宿区四谷の会場にも真っ白な衣装の「聖ミコライ」が登場。子どもたちに絵本やお菓子をプレゼントしてくれました。(プレゼントされた絵本は、貧困や病気など厳しい環境にいる子どもたちへ絵本を贈るNPO法人「チャリティーサンタ(東京)」にご協力いただいたもの)
 会の最後にはウクライナのクリスマスキャロルを合唱。よきクリスマスと新年を、との思いが会場に響きました。



①カウンセラーによるセミナー風景



②サーヤさんのヴァイオリン演奏



③大人も聖ミコライと記念撮影



④ひげの聖ミコライに興味深々



⑤子供達はゲームや歌で大はしゃぎ

松本クラブ 第24回アジア賞授賞式

板村哲也

日時：2022年12月17日（土） 13:30～15:32

場所：松本市駅前会館4階大会議室

主催：松本クラブ

協力：信州大学、松本大学、丸の内ビジネス専門学校、ワイズメンズクラブ東日本区/あずさ部、山梨YMCA

参加者：審査員（2）、信州大学（1）、松本大学（1）、丸の内ビジネス専門学校（1）、留学生（24）、山梨YMCA総主事、大阪泉北（松本クラブDBC、5）、京都プリンス（2）、富士五湖（3）、松本（12）、東京武蔵野多摩（1）、計52名

当クラブ参加者：板村（CS・Yサ事業主査として）

アジア賞は24年前に松本クラブがアジアからの私費留学生を対象として始めた小論文コンテストで、新型コロナウイルス感染症拡大の中にあっても途切れることなく続けられ、今回で24回目となりました。今年アジア賞の名前とその根本的精神はそのままに、対象者を全世界からの留学生、また私費ではない留学生にも拡大して実施されました。

小論文のテーマはコンテストの趣旨に沿ったテーマであれば自由で、日本語で3,000字以内。表彰は、最優秀者1名（5万円）、優秀者2名（3万円）、佳作5名（1万円）、審査委員特別賞1名（1万円）、賞外者全員（5千円）。

応募範囲拡大の結果、昨年までは多くても20数人だった応募が今年アジア地域以外からの応募者も加わり10カ国31人となりました。国別の参加者は中国（10）、韓国（4）、マレーシア（4）、ベトナム（4）、モンゴル（3）、タイ（2）、ネパール（1）、ウズベキスタン（1）、ポーランド（1）、イタリア（1）でした。今回の最優秀賞は中国出身で、信州大学医学部総合医工学研究科生命医工学専攻3年生の劉建平（リュウ ケンペイ）さんで、「人生の豊かさとは『選択』、『チャレンジ』、『実現価値』であ

る」でした。

授賞式では、経過報告、入選者発表、賞状・副賞授与、受賞者挨拶、選考講評、交流タイム、祝辞があり、交流タイムでは全員が5つのグループに別れ、楽しく懇談しました。コロナ対策の関係で飲食はありませんでしたがどのテーブルも大いに盛り上がっていました。

作文の内容は、留学により切り開く人生、母国と日本の風習・文化の違い、住んでいる町・出会った人、人生の豊かさなどに関するもので、いずれも海外（日本）で生活することにより得られた貴重な体験（視野の拡大、多様な価値観の理解、人間の本质への洞察など）を若者らしい新鮮な感覚で捉えていて、共感できるものでした。留学生たちは留学生どうしですが、またワイズの人たちと歓談するのはこの日が初めてとのことでしたが、今回の出会いがきっかけとなり、友情の輪が広がって行けばと思いました。

因みにこの事業は毎年あずさ部の地域奉仕事業補助金の対象となっています。

松本クラブよりの詳細報告は下記のウェブサイトをご参照下さい。

<http://www.alpscocity.com/ys/>



なお、アジア賞授賞式の後、17時30分より市内のフレンチレストラン「ル・ブラン」で松本クラブとDBCの大阪泉北クラブの懇親会が開催されこちらにも参加し、皆さんと旧交を温めました。

クリスマスから年明けの体験

山口 直樹

昨年12月から今年1月にかけて、1か月以上入院した。これほど長期の入院は初めてであり、当初は1週間程度の予定であったので、予想外の出来事であった。クリスマス、正月も病院で過ごすことになり、いろいろと考えるさせられた入院であった。

入院している気づきは、私のことを気にかけてくださっている方が本当に大勢いてくださること。私自身、今まで特に周りの人々の思いをこんなにしっかりと感じたことは今までなく、当たり前のように感じていた。自分が大変恵まれているのに気づくことができたことは、大きな発見であった。

顔・口のけがであったので、口の固定が治療であり、時間もかかったのであるが、現状は口が元通り使えるようになるた

めのトレーニング中である。日々、食べられるものが増えていく喜びを感じている。ご心配なく。ここでも普段当たり前に使えていたものが使えなくなることを通して、恵まれている状況を改めて感じる時間でもあった。

入院中に一番心に響いた言葉は、教会の牧師さんからのクリスマスカードであった。

「山口さんにとって今年のベツレヘムの馬小屋は病室ですね。こんなところに、御子イエス様がおいでくださった。」病院、病室が全然違って見えるとのことかな、何か入院中に起こるのかな、何かとの出会いがあるのかなど考えさせられる言葉を頂いた。この貴重な時間が答えかもしれない。この入院で得たものを、今後どのように自分に生かしていけるかが問われているのであろう。

皆さんに感謝。

<東京YMCA便り>

出沼 一弥

§1月分

▼山手センター70周年記念

11月27日に山手センター70周年を記念したリーダーOBOG会を開催。現在活躍するリーダーも含め125名が集った。リーダーOBOGが実行委員となり、キャンプソングやクラフトを楽しむを運営し、再会と交流の機会となった。当日はリーダー養成募金として約9万円集まった。

▼ウクライナYMCA支援活動報告会

12月14日にオンラインで開催され、会員、職員他70名が参加。ウクライナYMCAのVictor Serbulov総主事他、同YMCAの職員やボランティアから、ウクライナYMCAの活動や、東京YMCAの支援により実現したキャンプ、現在のウクライナ国内の状況等について報告があった。

12月18日に日本YMCA同盟が国内に避難しているウクライナの人々を対象に行っている支援プログラム「Ukraine Café HIMAWARI」のクリスマス会を開催。在日ウクライナの方々など約100名が集い、東京YMCAから3名の職員がボランティアスタッフとして参加した。

§今後の予定

○1月28日 第17回子育て講演会（オンライン）「いまどきの子育てで大切なこと～幸せ子育てのコツ～」
講師：大豆生田啓友氏（玉川大学教育学部教授）

§2月分

▼東京YMCAクリスマス募金報告

177の個人・団体から寄せられた合計2,341,000円は、「国際協力募金」「ウクライナ募金」「障がい児プログラム支援」「フレンドシップファンド」に用います。

▼東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山オープン

2023年度より品川区北品川（御殿山トラストタワー内）に新規オープンし、主に幼児から高校生を対象とした水泳クラスを開設。プレオープン企画として春休み中に短期水泳講習会を予定しています。

▼Bangladesh YMCAに訪問

2月19日～26日に5名の職員が長年パートナーシップ関係にあり支援を続けているBangladesh YMCAを訪問し、エディルプールYMCAとビリシリYMCAのNFPE（働く子どもたちの学校）の見学、ユースの交流等を予定しています。

§今後の予定

○2月13日（月）LGBT講演会「ダイバーシティを考える」問い合わせ：東陽町コミュニティーセンター
○2月22日 「ピンクシャツデー」（いじめのない世界を目指すキャンペーン）

メルカリ報告

2022/12/08 ¥195	2022/12/11 ¥330
2022/12/20 ¥222	2022/12/24 ¥240
2023/ 1/ 2 ¥150	2023/ 1/17 ¥1590

今月および今後の行事予定

2月4～5日	東西日本区交流会（神戸）
2月15日（水）19:00～	2月例会（2/8から変更） 歯科医師 堀清貴さん「地域での歯科診療の話題（仮題）」
2月22日（水）19:00～	2月第二例会（Zoom開催）
3月4～5日	次期クラブ会長研修会
3月 8日（水）19:00～	3月例会 山田公平次期理事
3月22日（水）19:00～	3月第二例会（Zoom開催）